

「2024年に創立100周年を迎えるにあたり、事業構造の変革を最優先課題として取り組んでいます。最適化されたオフィス環境を活用し、ノウハウや技術を持っている富士ゼロックスと一緒に、全社レベルでの働き方変革に取り組んでいきたいと思いを」

国際紙パルプ商事株式会社 上席執行役員
西村 邦敏 様



国際紙パルプ商事株式会社
KOKUSAI PULP&PAPER CO.,LTD.

課題

2024年に創立100周年を迎えるにあたって、事業構造の変革を目指しており、株式の上場も視野にいれている中で下記のことに取り組む必要がありました。

- グループ全体のガバナンス強化に向けたセキュリティの強化
- 事業構造変革を見据えた柔軟な対応ができるオフィス環境の基盤作り
- 周辺環境が変化する中、生産性向上にむけた新たな働き方へのシフト

解決策

- ICカード認証や技術の活用によって、放置プリント防止、不正コピー・ファクス誤送信の抑制およびトレーサビリティを可能にしたセキュリティ環境の構築
- 社員一人ひとりの意識向上に働きかけるオフィスインフラ環境ポリシーの策定
- グループ全体で統一された入出力環境の最適化
- 入出力機器の利用状況を可視化し、個人・部門単位でワークフロー分析の実施
- 働き方改革を促す、モバイルワークやクラウド環境が利用可能なオフィス基盤の構築

成果

- 入出力環境にかかわる機器・消耗品管理、契約の一本化による付帯業務軽減
- 利用状況の可視化による出力量の統制
- 入出力機器のオフバランス化
- 最適化による機器台数の集約（50%削減）
- 45%以上のTCO*削減効果
- 事業変化や組織変更に柔軟に対応できるオフィス環境の実現

*TCO (Total Cost of Ownership) : 導入・維持・管理などにかかる総経費を表す指標

今後期待できる成果

- ステークホルダーから信頼されるセキュリティレベルの実現
- ワークフローの改善による社内コミュニケーションの活性化
- 新しい働き方への変革による生産性向上

「富士ゼロックスは、4年間の出力環境の管理・運用を通して蓄積してきた実データを分析して、我々がおかれている環境や状況を理解し、目指す姿に向けて具体的で最適な改善案とロードマップを示してくれました」

国際紙パルプ商事株式会社 上席執行役員
西村 邦敏 様

事業構造の変革とグループ全体のガバナンス強化に向けて

国際紙パルプ商事株式会社様（以下敬称略）は、紙パルプ分野における専門商社であり、業界の大手企業です。

近年、紙パルプ業界は情報のデジタル化による影響で緩やかな縮小傾向にあり、各社ともに厳しい経営環境下におかれています。

2024年に創立100周年を迎える国際紙パルプ商事においても、新たな成長を求め、事業構造の変革を目指して長期ビジョンを掲げています。また、企業価値を高めるために株式の上場も視野にいれているため、グループ会社を含めたガバナンス強化が早急な課題となっています。

4年間の実データに基づいた具体的な改善案が決め手に

富士ゼロックスは、2010年より国際紙パルプ商事の本社と支店における入出力環境の管理・運用を任せ、付帯業務とトータルコストの削減を実現しています。

次のステップとして、国際紙パルプ商事が目指す事業構造の変革とガバナンス強化に向け、担当者とのワークショップ、現場ヒアリング、及び4年間の運用データの分析を実施しました。そして、ガバナンスの一環としてグループ全体のセキュリティ強化を行い、柔軟で新しい働き方への変革を促す、未来の最適なオフィス環境を描いて提示しました。

引き続き富士ゼロックスに任せることにした理由を、上席執行役員の西村邦敏氏は次のように語ります。

「富士ゼロックスは4年間のサービス運用を通して、我々がおかれている環境や状況を理解し、目指す姿と具体的な課題を抽出してくれました。また、取り組むべき課題については実データを見える化・数値化した上で、既存のサービスをベースとした具体的で最適な改善案とロードマップを示してくれました」

全社的なガバナンス強化に向けた万全なセキュリティ環境の実現

富士ゼロックスが第2ステップとして初めて取り組むのが、ガバナンス強化に向けた、セキュリティの対策です。

子会社も含めて、入出力機器の最適配置を行うことで統一されたインフラ環境をつくり、放置プリントと情報漏えいの防止、そして万が一の時には追跡措置がとれる環境を整えていきます。株式上場も見据え、西村役員は下記のように語ります。

「セキュリティの強化については、以前からその必要性を認識していました。セキュリティ事故ゼロの実現のみならず、万が一発生した場合の影響を最小限にできるように万全の体制を作っておくことも非常に重要です」

統一された入出力環境を基盤とした新しい働き方変革へ

そして現在は、オフィス入出力環境を基盤として、文書管理をする対象ドキュメントの絞り込みとその共有の仕組み作りに取り組み始めています。また、入出力基盤を、電子化やクラウド環境と連携させることで、セキュリティを保ちつつ、いつでも・どこでも業務ができるモバイルワークを可能とする、新しい働き方を支える環境作りも行っています。

具体的には、社内にある膨大な契約関連文書の電子化への取り組みや、子会社・取引先を含め、日々発生しているファクス業務に関する改善を実施していきます。今後も、国際紙パルプ商事の働き方変革への支援に向けて富士ゼロックスは、統一された入出力環境を基盤として、継続的に改善活動を行っていきます。

西村役員は次のように締めくくりました。

「継続的に最適化されるオフィス環境の中でワークフローの改善に取り組むことができ、業務の効率化、社内コミュニケーションの活性化、顧客関係性の強化も実現できるようになります。今後は、グループ全体で統一されたドキュメントインフラを活用し、ノウハウや技術を持っている富士ゼロックスと一緒に全社レベルでの働き方変革に取り組んでいきたいと思っております」



プロジェクトの推進にご協力頂いた
国際紙パルプ商事の皆様と富士ゼロックスの社員

Fuji Xerox Global Services について

これまでの実績に基づく豊富な経験とノウハウを有する当社のプロフェッショナルが、グローバルに活躍するお客様と密接に連携。お客様のビジネスを成功に導くため、ドキュメントプロセスを継続的に改善・最適化していきます。その結果として、業務プロセスの変革を通じた生産性の向上をはじめ、出力コスト削減、環境への貢献、セキュリティの向上など、企業の経営力を高める様々な効果が期待できます。